

キャノングローバル戦略研究所（CIGS）
ジェフリー・スタインバーグセミナー
『トランプ大統領就任からの1年半』
【質疑応答の概要】

日付: 2018年7月11日

場所: キャノングローバル戦略研究所 会議室

小手川大助 (CIGS 研究主幹) : 質疑応答に入る前に二つ質問したい。第一に、現政権の作業小部会の活動は、オバマ氏のホワイトハウス運営と比べてどうか？第二に、最近共和党の現職議員が予備選挙で敗北したり、引退を発表したりしているが、これは確かか？また中間選挙でトランプ氏はどんな戦略を取ると考えられるか？

ジェフリー・スタインバーグ、Pacific Tech Bridge (PTB)、Executive Vice President : トランプ氏の前は民主党の大統領であり、彼らは、無秩序な大学の学部のようにホワイトハウスを運営した。効果的ではなく、混沌とした有害な環境であった。オバマ大統領は全てを管理したが、決定も下しなかった。トランプ大統領は正当で理に適ったものであれ、単に衝動的なものであれ、決定を下すことに問題はない。例えば、トランプ大統領が聞かされていたものと異なる映像もあったが、シリア空爆は苦しむ人々の動画や写真を見て決定された。

現在は、情報に基づく意思決定プロセスは遥かに効率化されている。オバマ政権の間、イラク、シリア、アフガニスタンで対テロ作戦が実行された。現地司令官はホワイトハウスの許可なしに攻撃できなかったため、任務の遂行が困難だった。トランプ大統領は、マティス国防長官、ケリー首席補佐官、ダンフォード統合参謀本部議長の助言を聞き、現地司令官に迅速に対応する権限を与えた。イラクとシリアで速やかに ISIS を掃討できたのは、この違いによるものだ。

トランプ大統領に関して、あまり知られていないことがある。彼は大統領就任の当日に、再選運動を正式に提出している。遊説先でのトランプ大統領を見ると、大統領の演説というより選挙運動のように見えるが、実際その通りなのだ。トランプ大統領の政治基盤の中核は少数の熱心な有権者だが、このような有権者はオバマ政権にとっては重要ではなかった。トランプ大統領は意識的に政治基盤の活気を保とうとしている。

トランプ大統領は、自身の政治基盤が狭く、その支持を失えば未来はないと知っている。そこで 1 年半の間に急いで共和党を改革したが、党が足元から乗っ取られたと感じた多くの人々が共和党を離れている。共和党内には多くの派閥があるが、いずれもトランプ大統領をメンバーだとはしていない。それでも共和党の登録有権者から 90% の支持を得ている。トランプ大統領就任から 1 年半の間に多くの連邦判事、控訴裁判所および地方裁判所の判事が任命され、最近では最高裁判事 2 名が任命された。これは連邦司法機関に長期的な影響を与えている。

トランプ大統領は、自分がやることを気に入らなければ出て行けという姿勢を明確にしており、実際多くの共和党員が党を離れている。ホワイトハウスに支持されている候補者もあり、いくつかの共和党地方予備選挙ではトランプ大統領が支持する候補者が勝っている。1980年代にロナルド・レーガンに投票したブルーカラーの元民主党員の多くも、トランプ大統領に好意的である。

一方で、民主党は混乱しており、進歩主義派を党の主流に取り込めていないため、大きな問題を引き起こしている。数週間前のニューヨーク市の予備選挙では、資金が乏しい28歳のヒスパニック系女性が20年の経験を持つ議会議員に勝利した。彼女は選挙区の街路を回り、不満を抱く層に訴えた。その多くはトランプ大統領に投票した人達であろう。こうした現象が、選挙に向けた方向性を知る手がかりになる。

質問者 1: 共和党内にトランプ氏に対する挑戦する者はいるか？トランプ大統領が選挙で民主党候補に敗れるとすれば、どんな原因が考えられるか？

質問者 2: ケリー首席補佐官が間もなく辞任する可能性があり、マティス国防長官の影響力も弱まっている。トランプ大統領の外交政策にどのような影響があるか？

質問者 3: ブリュッセルのNATO首脳会合、プーチン大統領との首脳会談からどんな成果が得られそうか？

スタインバーグ: 今が2020年選挙シーズンであれば、トランプ大統領に有力な挑戦者がいるとは思えない。世間の注目を集めてはいないが、共和党の既得権に関わる多くの問題がある。現職大統領に対して本格的な挑戦が最後になされたのは、1980年のことだ。ロナルド・レーガンが現職のジミー・カーターを破ると見られたため、民主党内で再編の動きが起き、カーターを大統領候補から追い落とす企てがあった。ジェフ・フレック氏がトランプ大統領を批判しているが、トランプ大統領は周到にランド・ポール氏を手なずけてきた。いくつかの政策でランド・ポール氏は大統領に反対票を投じようとしたが、トランプ大統領は彼を引き留めることができた。今や共和党はほぼトランプ氏の党になっている。

しかし、ミュラー検察官の捜査は終わっておらず、まだ知られていないダメージとなる事実があるかもしれない。もう一つの未知の要因が経済だ。トランプ大統領の国内経済政策で、米国経済は本当に正しい方向に行くのだろうか？

今から 2020 年の間に起きる多くのことは、次期大統領選を戦う基盤を変えるだろうが、トランプ大統領が深刻な挑戦に直面する可能性は低いだろう。

民主党の課題は自らのアイデンティティを見つけることである。民主党は深く分断されており、2016 年の遺産が解決されていない。バーニー・サンダース氏がヒラリー・クリントン氏を破った州は、大統領選ではトランプ氏支持に回った。サンダース氏が掲げていたいくつかの問題をトランプ氏も取り上げていたからだ。クリントン氏は国内の動向を見抜けず、勝利は保証されているという思い込みがあった。民主党は未だに国内動向に適切に対処しておらず、ウォール街派と反ウォール街派に分断されている。これがトランプ氏に有利に働いている。

厳格な規律、第二次ブッシュ政権以降は反戦を貫く軍事機関など、軍出身者は大きな価値をもたらしている。マティス長官はトランプ大統領と独自の関係を持ち、かなりの頻度で定期的に面会している。協議の内容は外に漏れたことがなく、二人の関係は維持されている。マティス長官の責任感は大統領に仕えるものではなく、国家および大統領という制度に仕えているのである。

マティス長官のもう一つの強みは、国防総省内でほぼ全員の支持を得ていることだ。ちなみにジョン・ボルトン氏が国家安全保障担当大統領補佐官になってから、マティス長官とトランプ大統領の協議内容が少なくとも 2 回漏れている。情報を漏らしたのは、ボルトン氏または軍に対抗するボルトン陣営の誰かであるのはほぼ間違いないだろう。

マティス長官とトランプ大統領は不仲であるとの憶測が多く聞かれるが、国家安全保障チーム内の力学の偏りも多少あるだろう。私は、ポンペオ氏とマティス氏が連携して、ホワイトハウス内でボルトン派を更に孤立させることを期待している。ケリー氏は非常に難しい立場にある。ボルトン氏は、自分の就任を阻むためにケリー氏が手を尽くしたことを知っている。マティス氏が残り、マティス氏とダンフォード氏が足並みを揃え、今後もトランプ大統領が二人の意見を聞くというのが、私が考える最善のシナリオだ。

トランプ大統領が NATO 首脳会合にハンマーを持って現れるという噂は大げさだと思う。軍は、NATO は重要な機構で保持する必要があると明確にしている。ソ連とワルシャワ条約機構が崩壊した時、西側は勝利した。NATO は役目を終えたので解体しようという雰囲気であった。これに対する最も説得力ある議論は、NATO は米国と欧州に結び付ける唯一の正式な条約機構だということである。

当時起きた重要な出来事の一つは、東西ドイツ統合を受けて東ドイツの NATO 加盟が合意されたことである。しかし、緩衝地帯があり、NATO の東方拡大は実現しなかった。最も重要な緩衝地帯となった国がウクライナだ。プーチン大統領は、西側が約束を破ってウクライナに介入し、ヤヌコヴィッチ政権崩壊を招いたと主張している。西側はこれに対し、ロシアはクリミアを併合し、ウクライナ東部で軍事作戦を展開していると批判している。米国の軍や安全保障機関が NATO 脱退を考えることはないだろう。トランプ大統領は米国の駐 NATO 大使から何度もブリーフィングを受け、ロシアが東欧で作戦を行い NATO からトルコを離脱させる画策していること、中国も主に経済投資を通じて東欧に進出していることを教えられている。

米ロ首脳会談で、何らかの合意と行動を引き出せそうな唯一の領域はシリア情勢だ。トランプ大統領は、シリア国内でイランの役割を制限するために何ができるかをロシアに伝えるだろう。ロシアは、イランとイスラエル両国と交渉できる、ある種仲介役の立場にいる。イスラエルは、国境と接するシリア領域やゴラン高原から、イラン人とヒズボラを追い出したいと考えている。

非常に危険な問題は、軍縮交渉プロセスの再開だ。米ロ共に即時発射警戒態勢を敷いており、米国のミサイル探知能力はサイバー攻撃に脆弱だからである。米ロ関係は悪化しており、トランプ大統領が関係改善に努めるのは賢明なことだ。

ロシアは米国に、核軍縮協議を再開する用意があると伝えたが、軍縮協議は 3 カ国で行う必要がある。協議の新たなラウンドでは、少なくとも中国を協議に参加させ、核開発計画の規模と範囲を明らかにすべきだ。

質問者 4: 米国内では、戦術的な核兵器使用は合理的であるとの意見がある。エスカレーションの危険性を誰も考えていない。これは危険な兆候だ。

スタインバーグ: オバマ政権は、今後 10 年間で 1 兆ドルかけて米国の核兵器を近代化する計画を策定した。この計画では、戦術核は戦場の兵器だと定義している。戦術核は飛距離が飛躍的に向上し追尾機能も備えているため、戦闘機から発射できる。今では核兵器と通常兵器の区別が曖昧になっている。ロシア側も、同様なことを実行中だと示唆している。これは差し迫った戦略的課題であり、手遅れになる前に協議する必要がある。

質問者 5: トランプ大統領は、アジアの同盟国へのコミットメントをどの程度真剣に考えているのだろうか？ 中国との貿易協定以外に何か展望はあるのか？ 中国に譲歩することはあるのだろうか？

スタインバーグ: 今や中国との貿易戦争はエスカレートする瀬戸際である。トランプ大統領は、習近平主席と何度も前向きで効果的な会談を行っているが、中国が北朝鮮との協議プロセスを遅らせようとしているとの結論にも達している。トランプ大統領は、貿易問題と北朝鮮問題を分けて考えていない。習近平主席と金正恩委員長との会談で何があったかは分からない。分かっているのは、当初北朝鮮との外交から中国は除外されていたが、巧みに間に割って入ってきたということだ。米国が 340 億ドル関税をあげれば中国も同じことをするので、報復合戦だという意見もある。中国はトランプ大統領の理解の範囲を超えた行動を取るが、米国の国家安全保障関係者が予想する範囲を超えてはいない。

鄧小平は、文化大革命後の中国経済・社会の墮落から復活し、平穏で脅威のない国になると語った。しかし、現在の習近平主席は、中国の体制は西洋の民主主義より優れており、西側は政治体制における選挙、抑制と均衡が原因で何も成し遂げられないと主張している。

中国はいくつか非常に劇的で印象的な成果を上げて台頭して来ており、中国のシステムの方が優れていると公言している。この議論から皆さんに知ってもらいたい基本的なポイントの一つは、積極性を増したグローバル中国という新たな戦略的現実に対処する上で、米国にとって日本は重要なパートナーだということだ。中国は極めて大きな挑戦の構えを見せているが、日米の協力関係が本格的に進展すれば、中国が協力的になる動機となるだろう。

中国が北朝鮮の非核化に関して日米韓と協力することは、国益にもなる。さもなければ、2 年以内に日韓は核を保有するか、更に強大な米国の核の傘に入ることになり、中国にとって戦略的な利点とはならない。

貿易戦争は無限に続くのだろうか？ 中国には米国より不利な領域があり、賢明な中国はそれを認識している。貿易問題の一部は相殺されると見ているが、事態が思わぬ方向に向かう可能性を忘れてはならない。

小手川: 既に引退を表明した議員の名前を教えて欲しい。サウスカロライナ州の現職議員だと思うが。

スタインバーグ：引退する議員のリストは長く、日に日に増えている。ポール・ライアン氏は引退するだけでなく、再選挙にも出ない。これはある意味、引退する議員全体を象徴する行動だ。様々な理由から多くの議員が不満を感じている。アリゾナ州選出のジェフ・フレーク氏は大統領と真っ向から対決した。多くの人が彼に党のため引退すべきだと助言したはずだ。トランプ大統領は、自分が気に入った人物を党に残したいと考えている。

長く留まり過ぎた議員もおり、若い世代が出てくることもある。こうした変化はまだ始まったばかりで、どんな結果になるか分かるには10年掛かるだろう。

以上